

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 乙第 2464 号

Health risk behaviors, musculoskeletal disorders and associated cultural adaptation, depression: a survey among Myanmar migrant workers in Chiangmai, Northern Thailand

健康リスク行動及び筋骨格系障害と文化適応、抑うつとの関係：タイ北部チェンマイにおけるミャンマー移民労働者の調査

Thin Nyein Nyein Aung (ていん にえいん にえいん あうんぐ)

博士 (医学)

論文内容の要旨

海外からの移民労働者は、健康リスク因子や医療アクセスのほか、ライフスタイルの変化に直面し、また文化受容に大きく影響を受けている。また、マニュアルな職業に従事することが多く、筋骨格系障害 (MSDs) を発症しやすい。しかし、ミャンマーからの移民労働者の文化受容レベルと疾患に関する研究は未だ行われていない。そこで本研究は、タイのチェンマイ県においてミャンマー人移民労働者を対象に、健康リスク行動及び MSDs の有病率とその関連要因を明らかにすることを目的として実施された。

移民労働者 414 人に対し横断研究を実施した。異文化間で検証された東アジアの文化測定尺度 (EAAM)、標準化北欧筋骨格障害調査票 (NMQ)、抑うつのスクリーニング尺度 (PHQ-2 及び PHQ-9)、健康行動と仕事に関する調査票を含む構造化アンケートを聞き取りで実施した。データ分析は二項ロジスティック回帰法を適用した。

平均年齢が 29.5 歳の対象者のうち喫煙者は 26.3%、飲酒者は 40.8%であった。また 75.8% は運動をしておらず、40.1%が肥満であり、44.7%が高血圧予備群、27.1%が高血圧症、13%が抑うつ状態であった。過去 12 か月間の MSDs の有病率は 53.4%であり、女性 (aOR=1.75; CI=1.04-2.94)、抑うつ状態 (aOR=2.19; CI=1.10-4.39)、文化変容の疎外パターン (aOR=1.87; CI=1.09-3.21)、MSDs (aOR=8.41; CI=4.09-17.30)において有意な関連がみられた ($P \leq 0.05$)。

本研究によって、移民労働者の若年層における健康行動はリスクを伴い、MSDs はタイ北部の移民労働者にとって共通課題であり、さらに彼らの健康行動と文化適応は慢性的障害を引き起こすことが明らかとなった。今後は、本研究を基にした公衆衛生の介入によって移民の健康状態を改善し、生活の質と生産性を向上させることが重要である。